

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元.5.16）

作業部会名	・病院部会	事務局	・佐渡市 市民生活課
部会リーダー	・佐渡総合病院 佐藤病院長	サブリーダー	・両津病院 石塚院長 ・真野みずほ病院長
担当理事	・佐渡総合病院 佐藤病院長 ・両津病院 石塚院長		
作業部会 構成員	① 各病院管理者または病院長 ② 佐渡地域振興局健康福祉環境部 ③ 佐渡市		
部会中の 会議体	・地域医療構想会議との一体化を進める		
目標 (ゴール設定)	・持続可能な病院運営 — 「実効性のある機能分担と連携」 —		
具体的な 作業内容	① 病院ごとの機能・病床数・職種配置などの分担範囲を協議。 ② 分担範囲を前提とした連携基準の策定。 (1) 連絡窓口の一元化と明示。(各病院) (2) 紹介・転院連絡の方法及び様式の標準化。 (3) 病院機能及び生活支援を踏まえた入院・転院・退院・在宅の標準患者のフローの策定。 (医療・介護・福祉連携部会との協働) ③ 病院職員の研修体制の標準化を検討。 ④ ③を踏まえた従事者確保方針の意志統一。		
年間 計 画	令和元年度	【目標】 病床機能を踏まえた病院機能の設定と分担 機能分担を前提とした連携基準・フローの策定 病院職員の研修体制の標準化（学習研修部会と連携）、従事者確保方針の策定	
	R2年度 以降	【目標】 病院機能分担と連携の実践と修正 病院職員の研修体制の試験運用と課題抽出・対応 標準化された研修をベースとした従事者募集の試験運用	

進 捗 状 況 管 理 (平成 31年 4月 ～ 令和 元年 5月 まで)	第1回部会開催(2019/4/25) ・2019年度協議事項確認
--	-------------------------------------

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元.5.16）

作業部会名	・介護サービス部会	事務局	・佐渡市 高齢福祉課
部会リーダー	・大佐渡福祉会 特別養護老人ホーム 大浦の里 井野端園長	サブリーダー	・佐渡市社会福祉協議会 塚本常務 ・愛宕福祉会 グループホームさど 久文管理者 ・介護老人保健施設すこやか両津 村岡事務長
担当理事	・大佐渡福祉会 渡部副会長 ・佐渡市社会福祉協議会 田上理事 ・愛宕福祉会 伊澤理事		
作業部会 構成員	① 佐渡市在宅医療推進センター ② 介護支援専門員代表者 ③ 居宅介護系代表者 ④ 通所介護系代表者 ⑤ 入所介護系代表者 ⑥ 訪問看護代表者 ⑦ 佐渡地域振興局 健康福祉環境部 ⑧ 佐渡市 高齢福祉課		
部会中の 会議体	・特養施設長連絡会 ・特養生活相談員連絡会 ・通所介護事業所連絡会		
目標 (ゴール設定)	・介護サービスを必要とする利用者の状態に応じて流動的に対応できる、一体的な介護サービス提供体制の構築。		
具体的な 作業内容	<p>① 各施設の機能（対応範囲）の把握と整理</p> <p>(1) 施設機能の把握（医療処置に対する対応範囲や地理的な対応範囲含む）</p> <p>(2) 住民の介護保険に関する知識不足の解消</p> <p>② 共有すべき情報の把握と標準化</p> <p>(1) 同職種間や多職種間での情報共有の場を設置（定期的な調整会議等により他施設の情報把握）</p> <p>③ 施設で利用する様式の標準化</p> <p>(1) 入所系施設の申請様式の標準化</p> <p>(2) 入所時の様式に限らず、統一が適当と思われる様式の標準化</p> <p>④ 機能の分担・改善に向けた対策</p> <p>(1) 身元引受人に関する問題の検討</p> <p>⑤ 流動的に利用者を移動する体制の検討。</p> <p>(1) 特養施設の入所申込の一元化 (2) 空床情報や待機者情報の共有</p> <p>(3) 利用者の流れを調整、流動的な対応の検討</p> <p>⑥ 情報共有基盤として「さどひまわりネット」の活用を検討。</p> <p>(1) 施設の機能等を ICT を活用しタイムリーに情報共有（空床情報や待機者情報の見える化）</p> <p>(2) 在宅高齢者のサービス利用状況の見える化</p>		
年間 計画	H31 年度 (令和元年度)	<p>【目標】</p> <p>・施設の機能分担・機能改善についての整理を行い、各施設間での情報の標準化を行い試験運用する。</p> <p>・ICT 等を活用し流動的に利用者を移動する体制を構築し試験運用する。</p>	
	R2 年度 以降	<p>【目標】</p> <p>・施設の機能分担・機能改善を行い、ICT 等を活用し流動的に利用者を移動する体制を構築し本格運用を開始する。</p>	

進
捗
状
況
管
理

(平
成
31
年
4
月
〜
令
和
元
年
5
月
ま
で)

第1回作業部会（2019/4/9）

- ・各作業の進捗状況報告
- ・平成31年度計画について検討

【各作業部会の進捗状況】

① 連絡待ち

② 共有すべき情報の把握と標準化

- ・通所連絡会：4月にアンケート配布交流研修・見学等の意見の集計

5/15 連絡会開催予定（アンケートより活動等、相談調整行う）。

- ・訪問介護事業：今年度連絡会的なものを立ち上げられるように、関係機関と調整：5/13

課題：

- ・協議会に参加している法人内でも、下まで伝わっていないため出席してもよいのかわからないとの話聞かれる。
- ・他の部会と連携できるものもあるかもしれない。他と連携できるようにする方法等どうしたらよいか。

③ 施設で利用する様式の標準化

- ・リーダー・サブリーダーの決定について人事異動に伴い難航中、申請様式の標準化については継続して相談員とも調整し、統一が適当と思われる様式の標準化について検討する。

なお、長期・短期合同の検討会も必要ではないかと思う。

④ 身元引受人に関する問題の検討

(1) 平成30年度実施介護・福祉施設利用時の身元保証人等に関するアンケート調査分析

課題：

- ・成年後見人を申請してもなかなか決まらない。
- ・身元引受人がいない方で亡くなった場合、残りの財産やご遺体の事など対応が難しくマニュアルが必要。
- ・サービスの決定、変更時、ご本人が判断できない場合、身元引受人がいないと困る。
- ・滞納に関しては、利用者名義口座の引落等の場合、後見人等が資金管理されており滞納となった場合は、法的返済義務が名義人となる可能性があるため、連帯保証人等の確約が必要。
- ・入所者ばかりでなく身元引受人も高齢化や家族親族の絆が希薄傾向にあり、入所者の期間も長期化し様態の変化が生じるのが現実。施設として、入所者と身元引受人への報告・連絡・相談・対応を適切におこなうため、曖昧さは後々へ影響を及ぼす可能性がある。

公共福祉施設の身元引受人に民間の経営体になりえるかについては、「法的・実態・入所者、家族の身内間について医療機関側の対応調整など」様々な課題がある。

⑤ 流動的に利用者を移動する体制の検討

- ・4/23 施設長会議にて統一した申請書スタート後、問題点等なし。電子メール等の受付がないためもう少し様子を見ることとする。なお、受付方法については継続して検討。

- ・「システムの一元化」「空床情報や待機者情報の共有」「利用者の流れを調整、流動的な対応の検討」等全然進まず、継続して検討。

課題：

- ・多職種間の研修については、施設により温度差あり。
- ・情報共有の場の設置について、年一回定期的に特養職種別研修会を開催しているが調整会議には発展していない。

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元. 5.16）

作業部会名	・障がい福祉サービス部会	事務局	・佐渡市 社会福祉課
部会リーダー	・社会福祉法人 佐渡福祉会 岩の平園 渋谷園長	サブリーダー	・佐渡国仲福祉会 はまなすの家 藤原施設長 ・とき福祉会 雑賀施設長
担当理事	・佐渡福祉会 弾正副会長 ・佐渡国仲福祉会 本間理事 ・とき福祉会 末武理事		
作業部会 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・部会構成員は、佐渡市地域自立支援協議会参加者を基本とし、本協議会に関する者を登載。 ① 福祉サービス事業所代表者 ② 精神科医師 ③ 小児科医師 ④ 佐渡地域振興局 健康福祉環境部 ⑤ 佐渡市 社会福祉課 		
部会中の 会議体	<p>「佐渡市地域自立支援協議会」</p> <p>・障害者（児）が地域で安心して生活できるよう相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関し、中核的な役割を果たす定期的な協議の場として設置された協議体。</p> <p>構成メンバー：医療機関を代表する者、障害福祉サービス事業者、関係行政機関の職員</p> <p>8つの専門部会設置、協議会事務局は佐渡市社会福祉課</p>		
目標 （ゴール設定）	・障害の状況に応じて、ニーズにあった適切な支援を途切れなく、継続的に受けることができる体制を整備する。		
具体的な 作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合的な相談支援体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターを中核とした各相談支援事業所との情報共有に関する検討 ・人材養成環境の整備に関する検討 ・障害分野以外の高齢福祉、保健・医療機関との情報共有に関する検討 ② 地域生活拠点等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・各施設等の地域資源のネットワーク化（情報共有）に関する検討 ・不足する資源の開発に向けた検討 		
年間 計画	令和元年度	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携方策の実現に向けた事業化 高齢障害者の介護保険への円滑な移行 精神障害者の地域移行の促進 専門的な対応を行うことができる体制の確保と人材の養成機能 	
	R2年度 以降	<p>【目標】</p>	

進
捗
状
況
管
理

(平成31年4月
～
令和元年5月まで)

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元.5.16）

作業部会名	・在宅医療部会	事務局	・佐渡市在宅医療推進センター
部会リーダー	・佐渡医師会 小野素一	サブリーダー	
担当理事	・佐渡歯科医師会 児玉理事（代表）・佐渡薬剤師会 金子理事（副代表）・佐渡医師会 中山会長		
作業部会 構成員	① 在宅医療推進センター ② 病院代表者 ③ 診療所代表 ④ 歯科診療所代表者 ⑤ 保健薬局代表者 ⑥ 訪問看護代表者 ⑦ リハビリ関連代表者 ⑧ 介護支援専門員代表者 ⑨ 居宅・通所・入所介護代表者 ⑩ 佐渡地域振興局 健康福祉環境部 ⑪ 佐渡市 高齢福祉課		
部会中の 会議体	・在宅WG ・入退院WG		
目標 (ゴール設定)	・「在宅」を入院外（居宅・介護施設等）と捉え、佐渡における在宅医療の基礎を構築する。		
具体的な 作業内容	① 通院負担を減らして在宅での生活機能を保つ方策を検討。 ② 退院前生活指導の標準仕様を作成。 ③ 在宅医療へつなぐ様式の標準化。 ④ 退院後の状態評価の用紙の標準化。 ⑤ 退院後に指導内容を継続できているか確認する体制の構築。 ⑥ 緩和ケア等の継続と効果を評価する体制の構築。 ⑦ 各施設のサービス・機能・受入可能数の一元管理、調整利用の構築。 ⑧ 在宅看取りについて&エンディングノート		
年間 計画	令和元年度	【目標】 ・リハビリの早期介入及び医療用麻薬使用者の施設受入れの現状を把握し課題解決の対策を講じる ・佐渡において理想の入退院支援を実現するために、狭義の入退院支援システムと広義の入退院システムの2パターンで提言していく ・ACPと事前意思表示書作成について佐渡市民に周知させるための具体的方策を検討	
	R2年度 以降	【目標】 ・実証試験（試行、プランの見直し、運用の再構築）及び検証	

進 捗 状 況 管 理 (平 成 31 年 4 月) 令 和 元 年 5 月 まで	令和元年度も在宅WGと入退院WGの2つのワーキンググループで具体的検討課題について取り組んでいく。 第1回在宅医療部会（2019/04/16） ◎在宅WG及び入退院WGの進捗状況報告（部会内での情報共有） 【各作業の進捗状況】 ○通院負担を減らして在宅での生活機能を保つ方策を検討 ・厚生労働省はリハビリを制限する方向で動き始めている。病院外来でリハビリは4月から介護保険認定者はできなくなった。訪問リハビリの医師指示書について研修受講義務が2年間延長となりその間現状通り可能となる。 ○退院後に指導内容を継続できているか確認する体制の構築 ・入院時情報提供書と退院調整情報共有書が稼働していて今後施設とも共有する方針確認。入退院調整ルールについては佐渡市で策定したものを運用していく方向で動いている。 ○緩和ケア等の継続と効果を評価する体制の構築 ・昨年10月に行った介護等施設への医療用麻薬使用者受入れのアンケート結果より、過半数の施設が受入れできないとの回答があり法律に対する誤解等もあったため、再度法律の解釈の説明文（保管管理は他の薬と同様の扱いでよい等）を付けて現在再アンケートを実施中。 ○在宅看取りについて&エンディングノート ・ACP「人生会議」について元気うちに家族と話し合い事前意思表示書を作成することを周知させる方策について検討。佐渡総合病院作成「在宅看取りガイドライン」をホームページに載せているのでこれの有効活用についても検討。A4版チラシを佐渡市広報、地域の茶の間等で配布して周知していく動きも必要。 ○佐渡において理想の入退院支援を実現するために、狭義の入退院支援システムと広義の入退院システムの2パターンで提言していく。 ◎医療介護福祉連携部会の進捗状況報告。（情報共有） ◎2018年度実施状況管理シート及び作業スケジュール管理表、2019年度作業スケジュール管理表について協議。
---	---

第1回部会（2019/4/23）

- ・理事会報告事項「平成30年度実績報告」「平成31年度事業計画」について検討。
- ・各作業部会の進捗状況について情報共有。

進
捗
状
況
管
理

（平成31年4月
～
令和元年5月まで）

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元.5.16）

作業部会名	・学習・研修部会	事務局	・佐渡地域振興局健康福祉環境部
部会リーダー	・佐渡地域振興局健康福祉環境部 地域保健課 渡辺課長	サブリーダー	・佐渡市 市民生活課 後藤課長
担当理事	・介護福祉士会 中村理事 ・社会福祉士会 本間理事 ・看護協会 加藤理事		
作業部会 構成員	・以下①～④の代表者 ① 各病院の医事担当、薬剤師、歯科衛生士、セラピスト、検査技師、放射線技師 ② 各病院、施設の管理栄養士、看護師及び訪問看護師 ③ 介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、介護職員 ④ 薬剤師会、看護協会、リハビリテーション専門職協議会		
部会中の 会議体	職種別グループ（11） 医事担当、薬剤師、セラピスト、歯科衛生士、検査技師、放射線技師、管理栄養士、看護師、 介護支援専門員、相談援助職（医療・福祉）、介護福祉士・介護職員		
目標 （ゴール設定）	・医療介護従事者の教育研修環境の整備・充実 佐渡島内の医療介護従事者が共通して、職種毎の基礎的な技術習得と、組織別のチームリーダーの養成ができる研修体制を構築する。		
具体的な 作業内容	A 部会全体会 ① 職種グループの進行管理 ② 島内共通研修会、講演会の検討 ③ 施設間交流研修会の検討 B 職種グループ検討会 ① 初期研修プログラムの試行結果の集約と修正 ② 合同研修、交流研修の検討（自施設で対応できないプログラムへの対応） ③ 後期研修プログラムの策定 ④ 修了証交付の基準の検討		
年間 計画	令和元年度	【目標】 ① 初期研修プログラムの試行、修正 ② 後期研修プログラム（組織別チームリーダー養成）の策定 ③ 島内全体の研修体制の検討（交流研修等）	
	R2年度 以降	【目標】 ① 島内全体の研修体制の検討（施設間交流研修等） ② 研修プログラム（初期～後期）の試行、修正	

進
捗
状
況
管
理

(平成31年4月
～
令和元年5月まで)

令和元年度

実施状況管理シート（作成日：R元. 5.16）

作業部会名	・広報部会	事務局	・佐渡市 社会福祉課
部会リーダー	・佐渡市 社会福祉課 大屋課長	サブリーダー	・佐渡地域振興局健康福祉環境部 地域保健課 高木主査
担当理事	・佐渡地域振興局 樺澤理事 ・佐渡市 三浦理事		
作業部会 構成員	① 各部会代表者 ② 在宅医療推進センター ③ 佐渡地域振興局 健康福祉環境部 ④ 佐渡市 高齢福祉課		
部会中の 会議体	・無し		
目標 (ゴール設定)	・協議会の活動を効果的に情報発信できる広報体制を構築し地域住民の理解促進を図る。		
具体的な 作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の Web 更新 (総会議事録、各作業部会の活動状況等) ・佐渡地域の医療介護福祉を考える連続講座の開催 (①医療の現状と課題 ②在宅医療・介護について ③障がい福祉について) ・佐渡地域の医療介護福祉の現状を伝える出前講座の開催 (民生児童委員定例会、地域懇談会など) ・協議会の広報物の作成 (各作業部会の活動紹介チラシなど) 		
年間 計画	令和元年度	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の Web 更新 ・佐渡地域の医療介護福祉を考える連続講座の開催 ・佐渡地域の医療介護福祉の現状を伝える出前講座の開催 ・協議会の広報物の作成 	
	R2 年度 以降	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の事業進捗状況に応じた広報活動 	

・第1回広報部会の開催（2019/4/23）

議題 H31 事業計画について

進
捗
状
況
管
理

（平成31年4月
～
令和元年5月まで）